

国内フィールドワークの概要

第1回フィールドワーク

8月4日(木)：茨城 NPO センター・コモンズ(視察)

●視察内容

外国籍の住民が多い茨城県常総市を訪れ、茨城 NPO センター・コモンズの横田能洋代表から多文化共生社会をつなぐ架け橋として、同団体が取り組んでいる活動に関する話を伺いました。また、コモンズが運営する外国にルーツを持つ子供たちが多く通う保育園、世代や国籍を超えた交流の場である「えんがわハウス」などを視察しました。

●参加者の感想

- ✓ 横田さんの熱い思いにとっても感激しました。まずは相手を知ること、社会の仕組みを知ることが、「共に生きる」ためのスタートなのだと感じました。
- ✓ さまざまなアイデアを熱意や工夫と、多くの人を巻き込むことで実現・継続していく横田さんの姿に感銘を受けました。
- ✓ 人生をかけて成し遂げたいことをひたすらやり続ける熱意に感銘を受けました。多文化共生について、表面上の問題だけを捉えるのではなく本質的な見極めが大切だと感じました。



「横田代表による事業説明」

特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コモンズ(所在地:茨城県水戸市および常総市)

【ウェブサイト URL】 <http://www.npocommons.org/>

ひきこもりがちな市民、子ども、外国人、被災者、高齢者、障がい者、またそれら市民を支える地域社会の民間非営利団体などを対象として、①セーフティネットのインキュベーション、②ネットワーク化、③担い手の育成、④活動資源の仲介に取り組んでいます。子どもや外国人を対象とした事業としては、多文化保育園の運営、学習支援や学童保育、子ども食堂の運営支援などを行っています。

8月4日(木) : エスコーラ・オプション(視察・交流授業)

●視察内容

外国にルーツを持つ子供たちの現状を学び、同校の児童・生徒たちに対して交流授業を行うため、茨城県常総市にあるブラジル人学校を訪問しました。同校の概要や取り組みについて上村まゆみ校長から説明を受けたのち、小・中・高の生徒を対象に4チームに分かれて交流授業を実施しました。(15ページ以降に各交流授業の概要を記載。)

●参加者の感想

- ✓ 交流授業では、子どもたちが楽しんで取り組んでくれた様子が見られ、とても嬉しく思いました。校長の上村まゆみ先生の思いや、エスコーラ・オプションの子どもたちの様子についても色々を知ることができ、勉強になったと同時に、自分の中で葛藤やモヤモヤも生まれました。自分の中ではブラジル人学校に通っている子どもたちの卒業後の進路が、もっと開かれて、選択肢がもっと増えるといいなと感じました。日本で外国人として生きていくにはたくさんの壁があるのだと、上村先生の話聞いて感じました。
- ✓ ブラジル人の子どもたちの素直な気持ちを感じ、国や文化の違いの壁が取り除かれたような気がします。



「交流授業（中等部）」



「上村校長からの説明を聞く参加者」

エスコーラ・オプション(所在地:茨城県常総市)

【SNS(Facebook ページ)URL】<https://www.facebook.com/escoljapao/>

2001年に上村まゆみ校長が設立したブラジル人学校。ブラジル政府が認可しているブラジル人学校で、ブラジル国内の学校卒業と同等の資格が付与されます。小・中・高一貫校で、保育園も併設されています。日本の文部科学省の指定校で、卒業後は日本の大学の受験資格も取得できます。

8月5日(金)：学校法人アジア学院(視察・体験活動)

●視察内容

「共に生きるために」を使命に活動をしているアジア学院は、これまで多くのアジア、アフリカ、太平洋地域の方々と共に分かち合う生き方を目指し、農村指導者の養成と訓練を長年実施しています。同校を訪問し、職員から講義やワークショップを受けたり、様々な国から来ている学生たちと一緒に農作業などを体験したりすることを通して、学校の理念やその実践方法、多文化共生の取り組みについて学びました。

●参加者の感想

- ✓ 「共に生きるために一人一人が向かっていく過程が大切」「私たちはこれまでにどれだけの命をいただいていたかを考えると、もっと自分を大切にしなければならない」という言葉がとても印象に残っています。食と教育、農業と教育は深いつながりがあることも感じました。自分の生活を見つめ直すきっかけにもなり、教員として子どもたちに何を伝えていかなければならないのか、何を大切にしなければならないのか、もっと自分なりに考えていきたいと思えます。ディスカッションの場が多くあり、人の話を聞いたり、自分の思いをアウトプットしたりできて、学びが深まりました。対話の時間がたくさんあったのが、とてもよかったです。
- ✓ できるなら、何日間か、アジア学院に滞在してみたいです。話したこと一つひとつ、体験したこと一つひとつを忘れません。また行きたいです。



「阿部マノシ氏によるワークショップ」



「フードライフワーク体験」

学校法人アジア学院(所在地: 栃木県那須塩原市)

【ウェブサイト URL】 <https://ari.ac.jp/>

世界中から集まった人々が平和的かつ持続可能な方法で「共に生きるため」のアイデアを分かち合う、コミュニティを基盤とした学校です。草の根コミュニティの自立のために、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ、中南米、太平洋諸国の農業指導者を育成する「農業指導者研修プログラム」、コミュニティ、平和、フードライフについて学ぶ機会を一般の人々に向けて提供している「オープンラーニング・プログラム」のほか、個人・団体のビジターも受け入れています。

8月6日(土)：株式会社照沼 名誉会長 照沼氏による講義

●活動内容

株式会社照沼は、JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業を活用し、タンザニアでプロジェクトを実施しました。同社名誉会長の照沼勝浩氏からは、同社の事業概要や成果だけでなく、日本では想像もつかないことが次々と起こる現地の苦労話や失敗例までお話しいただき、国際協力の一事例を超えて、多様な人々と信頼関係を築く術やリーダーシップのあり方についても学ぶことができました。

●参加者の感想

- ✓ 照沼さんのユーモアや情熱がとても格好よいと思いました。タンザニアで干し芋を作るというアイデアは、照沼さんの新しいものに挑戦しようという意欲や、よりよくしたいという強い思いによって生まれたものだと感じました。
- ✓ 講演を受けて、東海村の臨界事故、東日本大震災などの窮地に立たされたところから立ち上がったエネルギーが素晴らしいと思いました。



「照沼名誉会長による講義」

株式会社照沼(所在地:茨城県那珂郡東海村)

【ウェブサイト URL】 <https://hoshiimo.co.jp/>

茨城県内にある約 40 ヘクタールの自社農園でさつまいもを有機栽培により生産しており、栽培期間中、農薬・化学肥料を一切使用しないこだわりの農法で作るサツマイモで干し芋を製造しています。2014年にタンザニアに現地法人を設立し、国際協力にも力を入れています。

8月6日(土)：JICA 筑波研修員との交流

●活動内容

JICA 研修員 7 名(カンボジア、中国、ナイジェリア、ナミビア、パレスチナ、ウガンダ、南スーダン)との交流会を実施しました。研修員は教員に各国の文化や国の課題に関するプレゼンテーションを行ない、参加教員は研修員にお琴や柔道、書道、折り紙など日本文化を紹介・体験してもらいました。お互いの国や文化を英語で紹介し合う今回の交流は、双方にとって、何よりも思い出に残る貴重な機会になりました。



「JICA 研修員との交流」

●参加者の感想

- ✓ 相手のことをもっと知りたいので、これから語学力を高めていきたいと思いました。
- ✓ 最初はイメージがつかみませんでした。が、ブラジル人学校での授業をアレンジし、みんなで交流の内容や方法を考えたことがよかったと思いました。研修員の方々もとても楽しそうに活動されていて、嬉しく思いました。やはり直接触れ合い、交流することで感じる事、学ぶことはとても多く、心に残ると思いました。

第2回フィールドワーク

9月30日(金)：常総市立水海道中学校夜間学級(視察・交流授業)

●視察内容

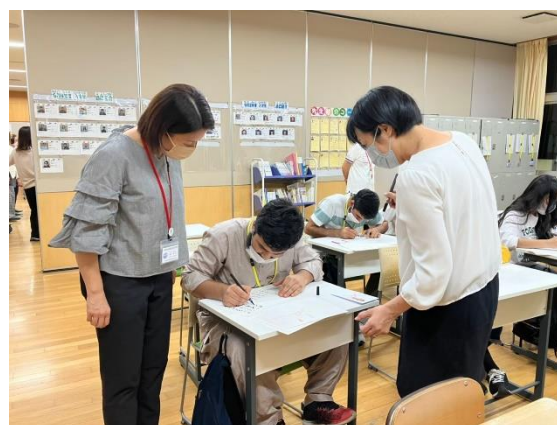
茨城県内唯一の公立夜間中学「常総市立水海道中学校夜間学級」を訪問し、夜間学級の制度や同校の取り組みについてお話を伺いました。多くの外国人が通っている同校の状況についても説明を受け、国語/日本語の授業を参観しました。その後、夜間学級の生徒に対し、交流授業を行いました。

●参加者の感想

- ✓ 学び直しという視点がSDGsの誰一人取り残さない教育につながっていると感じました。また、教育を受ける年齢制限がないことに大変感動しました。
- ✓ 茨城県内にいながら、夜間中学のことを全く知りませんでした。学び直しまたは外国人支援として、これからますます需要が高まると思うので、参観は大変有意義でした。
- ✓ 習熟度別の国語の授業を参観し、外国籍の方への日本語の授業が大変勉強になりました。自分たちが何気なく使っている日本語の文法は、日本人も知らないことが多く、外国人として日本語を学ぶ感覚を体感することができました。先生方は日本語指導の専門家ではないにもかかわらず、校内研修での学びをもとに、分かりやすく、楽しく、丁寧な授業をされていて、その熱意がとても素敵だと思いました。



「交流授業（折り紙）」



「交流授業（書道）」

常総市立水海道中学校夜間学級(所在地:茨城県常総市)

【ウェブサイト URL】<https://www.joso.ed.jp/mitsukaido-j/index.cfm/10.html>

常総市にある中学校夜間学級です。夜間学級では、夜の時間帯に、義務教育を修了していない人や外国籍の人などに教育の機会を提供しています。同校では、約7割が外国籍の生徒です。

10月8日(土) : JICA 地球ひろば(視察・体験活動)

●視察内容

午前中は、JICA 地球ひろば 地球案内人の佐藤秀樹氏によるワークショップや地球ひろば見学ツアーを体験し、国際理解教育や SDGs の学びを深めました。午後は、JICA 東京の教師海外研修過年度参加者である、本間美月教諭(昭島市立清泉中学校)と竹内淑香教諭(杉並区立新泉和泉小学校)による、SDGs 授業実践事例発表の後、参加者と意見交換を行いました。

●参加者の感想

- ✓ 午前中のワークショップ、午後の授業実践の発表と、とても学びのある1日でした。授業ですぐに取り入れられそうなアイデアも多くあり、授業を考えるのが楽しみです！
- ✓ 自分でもワークショップを実践してみたいと思いました。
- ✓ 実践に即した発表だったので、今後の自分の授業のイメージが持てました。
- ✓ 情報は常にアップデートされるため、これからさらに学ばないと取り残されてしまうと思いました。これからも学び続けたいです。



「JICA 地球ひろば見学」



「東京都の教師による実践事例発表」

JICA 地球ひろば(所在地:東京都新宿区)

【ウェブサイト URL】 <https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>

JICA 地球ひろばは、2006年4月に「市民参加による国際協力の拠点」として設立されました。JICA 地球ひろばでは、開発途上国の暮らしの現状や、地球が抱える課題、国際協力の実情などを、見て・聞いて・さわって体験できる展示と、途上国での活動体験談や開発教育教材を使った参加型学習(ワークショップ)を組み合わせたプログラムを実施しています。修学旅行や社会科見学、総合学習等でぜひご利用ください。